

メンタル・スペース理論と過去・完了形式：日本語 と韓国語の対照

曹, 美庚

広島修道大学人間環境学部：助教授：日韓対照言語学、異文化コミュニケーション論

<https://hdl.handle.net/2324/6055>

出版情報：2003-06-30. 広島修道大学総合研究所
バージョン：
権利関係：

第1章 序 章

日本語と韓国語のテンス・アスペクト形式、とりわけ「タ」と「있」の用法は以下に見るように、基本的なところにおいて概ね一致しており、いずれもすでに実現した事態に対して用いられ、「過去」あるいは「完了」を表すとされる。

- (1) a 昨日、映画を見た。
b 어제 영화를 보았다。

しかし、下記のような「タ」と「있」については、それがテンスを表すものだとは考え難い。

- (2) a (しばらく母を探していて) ここにいたの。
b 여기 있었어。
(3) a (コーヒーを入れながら) あなたはブラックでしたね。
b 너는 블랙이었지。
(4) a (クイズ番組の司会者) 正解は、3番でした。(金水 [1997])
b 정답은 3번 이었습니다。
(5) a ターンの失敗がなかったら21秒台は出た。(寺村 [1984])
b 턴에서의 실패가 없었더라면 21초대는 나왔다。

このうち(2)~(4)は、客観的事実としては「(母が) いる」「君はブラックだ」「正解は3番である」のように現在形で述べられるべき事態である。「タ」が付いているのは、それによってある種の「主観的」な意味が表されているからであると説明されることが多い(寺村 [1984])。また、(5)の場合も、仮想的意味が含まれている「タ」と言われている。

さらに、日本語の「タ」について言えば、

- (6) 早く帰ったほうがいい。
- (7) 明日、雨が降ったら、運動会は中止だ。
- (8) どいた、どいた。

などに典型的に見られるような、未実現事態に対して用いられる「タ」の用法がある。

一方、韓国語の「있」にもまた、日本語と用法が完全に一致する訳ではないが、

- (9) 너 이제 죽었어. (お前は、もう殺されたぞ)
- (10) 내일 비 왔다가면, 운동회는 중지다. (慶尚方言, [例(7)と同じ意味])

などのように、未実現事態に対して用いられる「있」がある。これら多様な「タ」と「있」用法についても、テンスを表すものであるとは言い難い。

本研究では、テンス・アスペクト・ムードの「タ」と「있」および未実現事態に対して用いられる(1)~(10)の「タ」と「있」すべてが、話者の「完了認識」を表す心的表示であると考え、とりわけ、多様なムードの一つとして簡単にしか扱われず、詳細な記述研究がなされていない、未実現事態に対して用いられる「タ」「있」の現象について重点的に考察を行う。

従来のテンス・アスペクトでは説明しきれなかったムード的な「タ」を含むこれらの未実現事態に対して用いられる「タ」「있」の現象は、典型的な「過去・完了」用法とどのように統一的に説明できるだろうか。本研究では、メンタル・スペース理論に基づく考察から、「タ」「있」に対して「話者の認識マーカー」としての統一的な解釈を与えている。その際、日本語の「タ」

を中心的に考察しながら、韓国語の「ㄹ」についても対照分析を行うことで、話者の「完了認識」における言語差をも考察する語用論的分析を行っている。

メンタル・スペース理論では、談話の流れに沿って状況や知識が動的に変化する様子を明示的に捉えることができ、また、話者の心的状態を外的世界とは独立の構築物として表現することもできるので、この理論は、「タ」「ㄹ」の意味特徴を取り出すのに適した理論であると言えよう。「タ」「ㄹ」形式をこのメンタル・スペース理論に関連づけて考察することで、従来のテンス・アスペクト理論の「過去・完了」ではどうしても説明しきれなかった多義的「タ」「ㄹ」をも、「過去・完了」と同様に話者の視点に基づく主観的な「完了認識」の表示であると考えた。

ここで、話者の「完了認識」が付与される心的スペースは、現実世界とは独立して構築されると考えるのである。簡単にいえば、過去の現実の事態を発話時において語るためには、過去の現実に対応する過去の心的スペースを設定しなければならない。この過去スペースは、現在の現実に対応する現在スペースとも区別される。我々は現実の時間の流れの中を行き来することはできないが、心的スペースにおける現在スペース、過去スペースの間ではそれが可能になる。

このように心的スペースは現実世界とは独立している。そのため、スペースにおける時間の設定やその流れも現実世界とは独立していると言えよう。そして、すでに終わった過去事態に対して心的レベルの完了認識が発話に表示されたのが、一般に言う回想の「タ」「ㄹ」である。

このようなことは、未実現の事態に対しても言える。たとえば、ある未実現事態が存在し、その事態が限界達成に向けて進行する際に、話者は現実世界の状況や情報をもとに、心的スペースを構築する。心的スペースにおいては、いくつかのシナリオが存在する。心的スペースの時間の流れは現実世界の時間の流れとは独立しているため、話者は心的スペースにおける時間の流れをスキャンする事もできる。現実世界からの情報の変化を動的に取り入れ

ながら、心的スペースにおけるシナリオの数は収斂される。さらに話者は、そのシナリオが限界達成に至る時点までも先走ることができる。その限界達成後のスペースに話者視点を移すことで「完了」を認識する。この心的レベルでの「完了認識」が発話に表示されたのが未実現事態に用いられる「タ」「ㇿ」形である。

こうしたスペース的解釈によって、いかなる心的スペースにおいても、話者は時間的制限を克服した発話を導くことができる。心的スペースにおいて話者視点を移動し、完了を認識さえすれば、「タ」「ㇿ」形の発話が成立するのである。

以上のように考えることで、テンス・アスペクト説の「過去・完了」を含めて、多義の意味の「タ」「ㇿ」や、さらには、未実現事態に対して用いられる「タ」「ㇿ」についても、話者の「完了認識」における心的表示としての「タ」「ㇿ」であると統一的に説明することができる。このことは、「タ」「ㇿ」をテンス・アスペクト的なものとしてではなく、「話者認識マーカ」として位置づけることを意味している。

本研究の全体構成は次のとおりである。

まず、第2章において、従来の「タ」の研究をふまえるとともに、フォコニエのメンタル・スペース理論を概観する。さらに、従来の過去・完了における「タ」の現象を本研究のメンタル・スペースの立場から再照射することで、「タ」は話者の「完了認識」の心的表示であることを確認する。

第3章においては、実現が確実と思われる近未来の事態に用いられる「タ」「ㇿ」の現象を指摘・考察する。ここでは、未実現事態に対して「タ」「ㇿ」が発話されうるプロセスを、メンタル・スペースの概念に基づく話者の事態認識構造として把握することで、「タ」「ㇿ」が話者の「完了認識」を表す「心的パーフェクト」の表示であると解釈する。

また、これらの未実現事態に対して、話者の「完了認識」による「心的パーフェクト」が言語表示として発話される許容範囲についても考察を行

い、受験の当落、意思決定に関するもの、勝敗を決めるゲームなどで実例が見つかりやすいこと、かつそれが動詞の意味性質とも関連していることを指摘した上で、日本語と韓国語においては語用論的相違が存在することを示す。

例えば、登山で遭難中、レスキュー隊が現れたときの「助かったぞ。」という発話を考えてみよう。これは、まだ助かっていない時点にしながら、話者が間もない近未来に助かることを確信した結果、「心的パーフェクト」を表す話者の「認識マーカー」としての「タ」「ㄹ」を発話に表示するに至った例である。

第4章では、「この本を読んだほうがいいよ。」などに使われている「タほうがいい」を「ルほうがいい」と対照しながら意味記述する。「ほうがいい」という心的レベルの仮想世界において、「ルほうがいい」は一般論的選択として同等価値のシナリオを想定するのに対し、「タほうがいい」は事態の個別的選択を表すもので、特定シナリオのみを想定し、その特定シナリオの完了後に話者視点が置かれていると解釈する。こうしたスペース的解釈によって、「タほうがいい」に使われている「タ」は話者の「完了認識」を反映している心的表示の「タ」として体系化される。

さらに、日本語の仮定条件文「彼が来たら、ここを出ましよう。」などに使われる「タ」の現象の説明にも、スペース的解釈としてのメンタル・スペース理論が有用であることが知られている。第5章では、日本語と韓国語の条件文における「タ」と「ㄹ」について同様なスペース的観点を取り入れた解釈を行う。具体的には、日本語のタラ条件文に対応するスタンダード韓国語と慶尚方言の韓国語の条件形式を考察し、条件節内の「タ」が特定スペース内において「完了」性を内在していることを韓国語「ㄹ」との対照から検証する。

最終章では、全体の議論を総括すると同時に、メンタル・スペース理論の導入により可能となった「タ」の統一的説明を本研究の貢献として述べる。さらに、今後の研究課題を提示する。